

小・中学校9年間の
キャリア教育を
分かりやすく
解説しています。
各学校の教育活動を
キャリア教育の視点で見直し、
子どもたちが
将来を生きぬく力を
はぐくみましょう。

実践のための4ステップを示しませぬ。

子どもたちが
将来の夢に
向かって
はばたくことを
支援します。

推進には、「学校」「家庭」「地域」の力が必要です。

「生きること」「学ぶこと」「働くこと」を大切にするキャリア教育！！

埼玉県では、子どもたちに変化の激しい流動的な社会を力強く生きていくために必要な資質や能力である「生きる力」を身に付けさせるために、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」を大切にするキャリア教育を推進します。

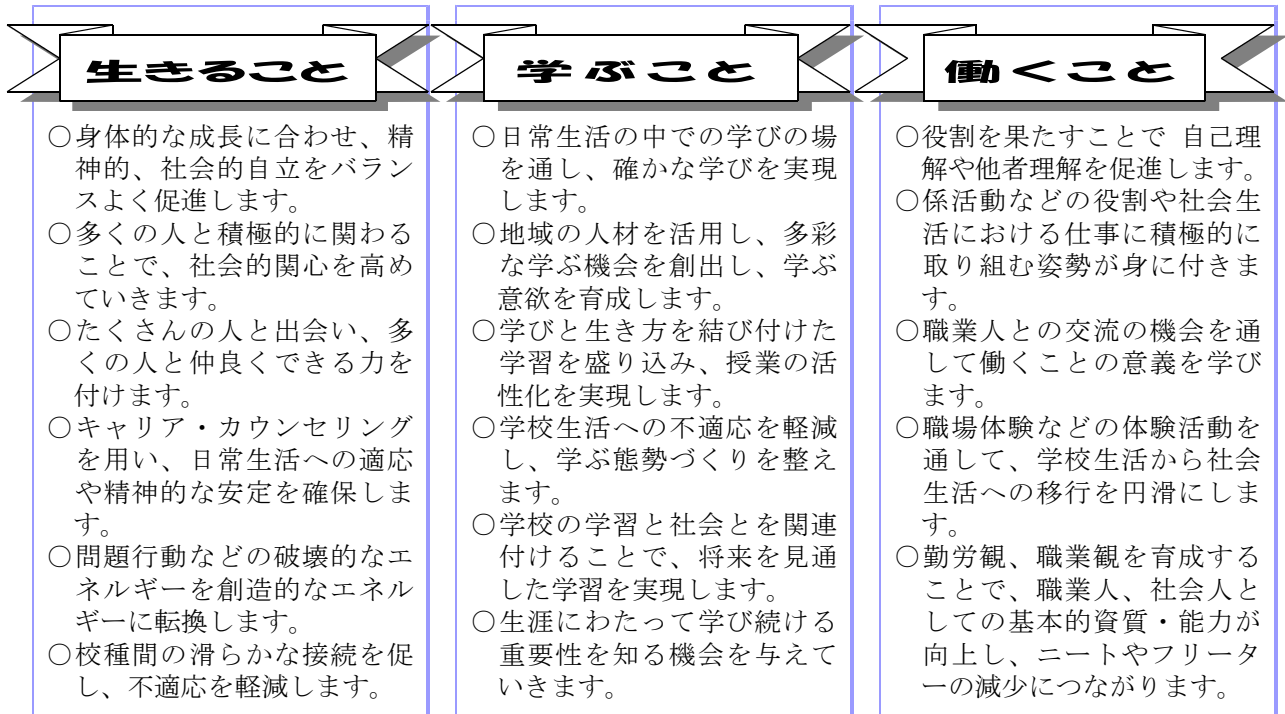
キャリア教育は、学校に限らず家庭や地域でも推進することが大切です。このテキストは、学校を中心として家庭や地域が一体となり、キャリア教育を推進するために作成したものです。

埼玉県 キャリア教育 推進テキスト

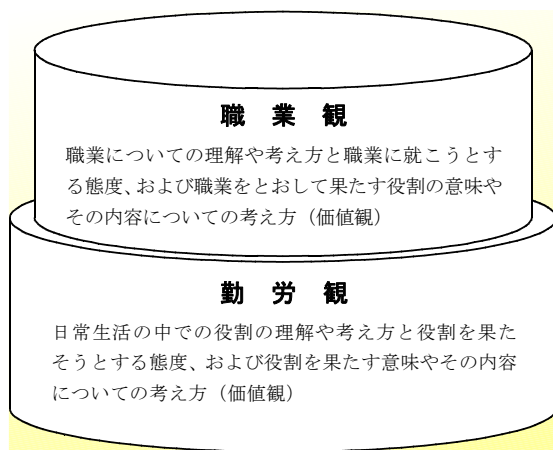
埼玉県小・中学校キャリア教育指導資料

平成19年1月 埼玉県教育委員会

キャリア教育は「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」と定義されていますが、さらに広い視野に立つと「生きること」「学ぶこと」「働くこと」を大切にする教育であると埼玉県では捉えました。それぞれ、児童生徒に次のようなはたらきかけをします。この3つの柱は、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～（平成16年1月 文部科学省）」で取り上げられた「学習プログラムの枠組み(例)（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）」に示された4能力領域の構造等を分析することで導き出したものです。

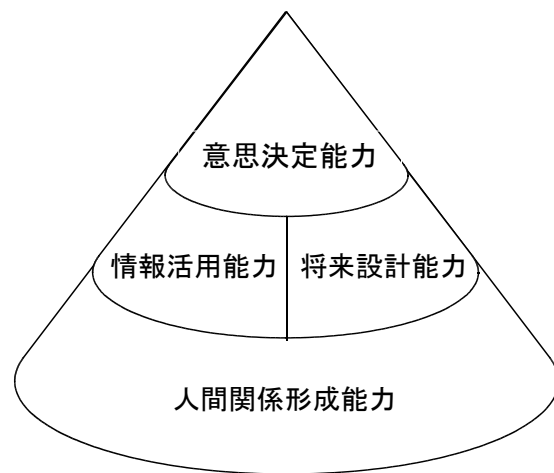


3つの柱は、勤労観、職業観の二層構造や、4能力領域の構造の考え方に支えられています



勤労観、職業観の二層構造

勤労観が基盤になって職業観が成立すると考えますと、中学校における職場体験などの成否は、小学校からの清掃や給食、飼育栽培や美化活動への関わりが重要になります。



4能力領域の構造

4能力領域は人間関係形成能力が基盤になり、情報活用能力や将来設計能力は活動の豊かな展開により形成され、最終的に意思決定能力が身に付く構造をなしていると考えられます。

4つのステップで進めるキャリア教育

(1) 小学校でのキャリア教育の意義・必要性

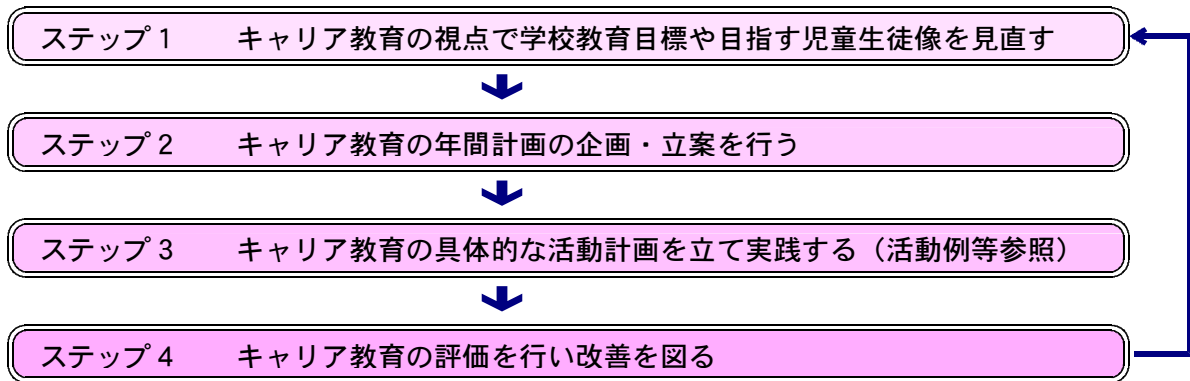
小学校でキャリア教育を実施することには二つの意義があります。一つ目は、小学校で初めて「進路」にかかる内容を直接扱う教育が始まり、それが、中学校、高等学校を通じて12年間の段階的、系統的なつながりを見せるということです。二つ目は、勤労観の形成は主に小学校で行われるということです。清掃、給食、係活動といった役割活動の中で勤労観は形成され、その後の職業観の形成を大きく左右するということです。これらの点で小学校キャリア教育の必要性は高いといえます。

(2) 中学校でのキャリア教育の意義・必要性

中学校での進路指導の取組はキャリア教育の中核とされています。進路指導において、キャリア教育の4能力領域の考え方により、全教育活動にわたる多彩な活動の展開が期待できます。また、6年間の小学校のキャリア教育に中学校のキャリア教育を接続することで、さらに多くの人材の活用や、家庭や地域との連携の輪が広がるなど、キャリア教育の導入は、進路指導の活動を効果的、系統的、そして多岐にわたったものに拡充させています。

(3) ステップの流れ

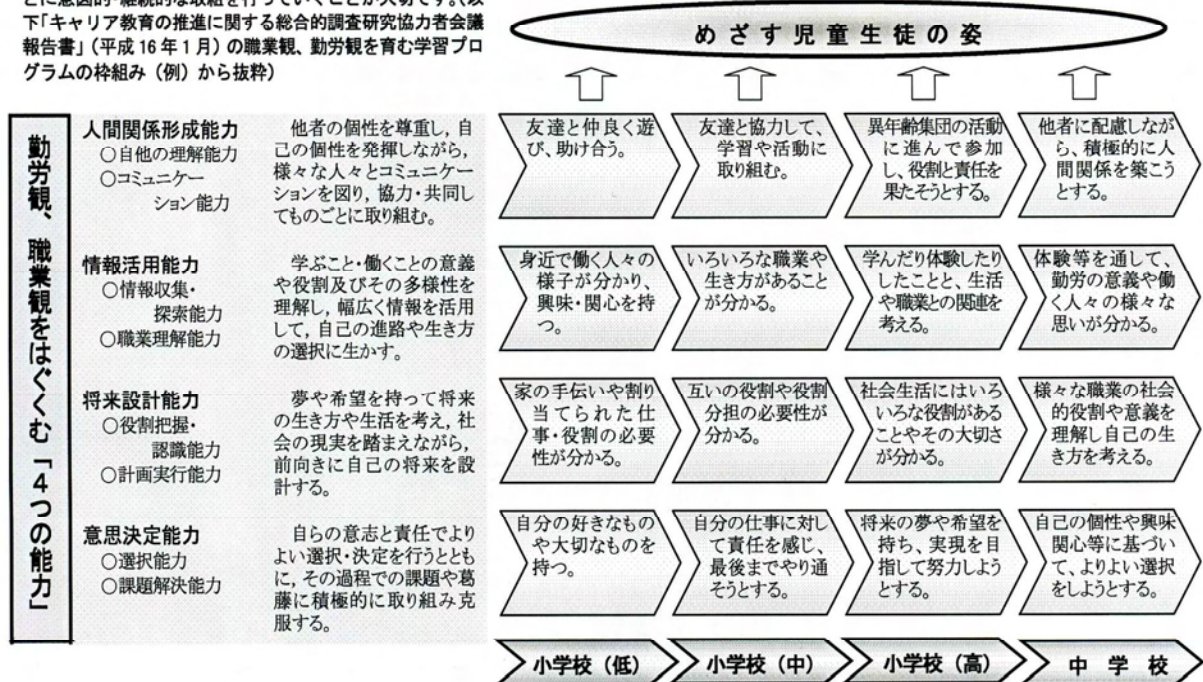
学校でキャリア教育を推進していくために、次に挙げる4つのステップを示しました。



次ページ以降、小学校、中学校の例について、それぞれページの上段、下段に分けて説明していきます。

【参考】勤労観、職業観をはぐくむ「4つの能力」と身に付ける段階

人間の成長発達過程にはいくつかの段階があります。そして、段階ごとに解決すべき課題があります。それらの課題を達成しながら社会の中での自己の役割を認識し、勤労観、職業観を形成していきます。児童生徒一人一人が、発達段階に応じて、それぞれの発達課題を達成できるよう「4つの能力」ごとに意図的・継続的な取組を行っていくことが大切です。(以下「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(平成16年1月)の職業観、勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)から抜粋)



ステップ1

キャリア教育の視点で学校教育目標や目指す児童生徒像を見直します

校内におけるキャリア教育の共通理解を図るとともに、これまでの学校の教育目標、目指す児童生徒像、教科・領域などの年間計画を見直します。見直しの対象はこれまで行ってきた個々の教育活動まで含まれます。これからの実践や評価の方法も想定しながら見直しを行います。

小学校では、生き方や進路に関する基礎的な能力や態度を育成していきます

育成する児童像（目指す児童像）の例

低学年	中学年	高学年
学校や家庭の中での自分の役割に興味をもつ。	学校や家庭の中での自分の役割をやりきることに責任をもつことができる。 身近な地域に様々な仕事があることがわかる。	自分に自信をもち、将来の夢のイメージをつくることことができる。 働くことの大切さや苦勞や喜びがわかる。

4つの能力と活動例

人間関係形成能力	学校生活への適応 元気な挨拶や返事 学級遊び お店屋さんごっこ	友達との助け合い 学級遊び 自己紹介・班活動	縦割り活動 児童会活動 6年生を送る会 中学校への移行支援
情報活用能力	家の手伝い 係や当番の仕事 町探検	調べ学習 仕事の大切さ 体験的学習	社会科調べ学習 地域の人との交流 体験的学習
将来設計能力	自分のめあてづくり 自己紹介「わたしの好きなこと」 生き物・植物の世話	自己目標づくり 役割分担 将来の夢や希望	自己目標づくり 旅行などの計画づくり 「将来の夢」づくり
意思決定能力	学級の係決め 調べたことの発表 学習の振り返り	話し合い活動 係活動 学習の振り返り	学級会（話し合い活動） 奉仕活動 学習の振り返り

中学校では、体験を通して社会と関わり、将来を考えた中学卒業後の進路を選択させていきます

育成する生徒像（目指す生徒像）の例

1学年	2学年	3学年
自分のよさや得意分野を理解することができる。 将来の夢や職業について、関心・意欲を高めることができる。 他人のよさや気持ちを理解し、尊重することができる。	働く喜びや厳しさを体験し、感じることができる。 職業の世界について理解を深めることができる。 リーダーとフォロアーの立場を理解し、互いに支え合うことができる。	就職や進学する意味を考えることができる。 希望する進路先の情報を入手し活用することができる。 よりよい生活や学習を目指し、自ら課題を見つけることができる。

4つの能力と活動例

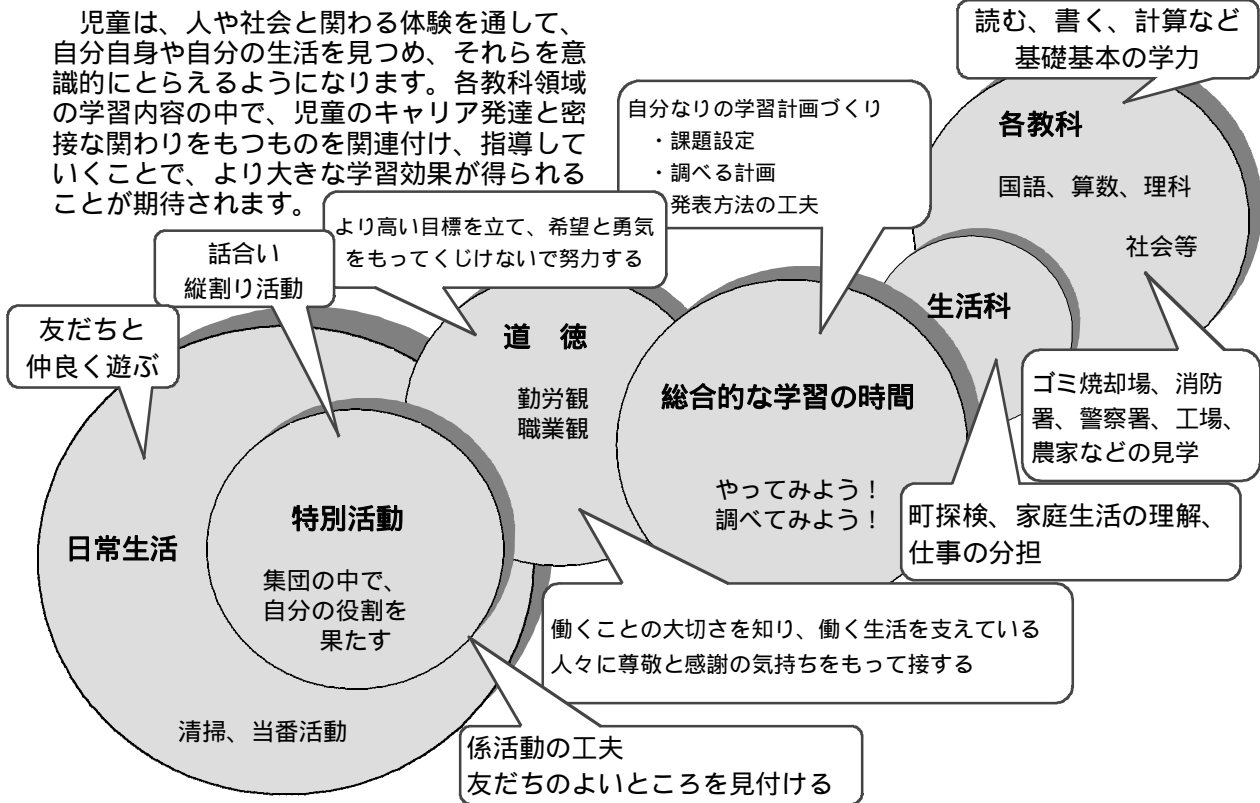
人間関係形成能力	<ul style="list-style-type: none"> 学級における班活動、グループエンカウンター 行事における体験活動、生徒会活動や部活動など異年齢集団による活動 ソーシャルスキルトレーニング、など
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> 職場訪問、職場体験、上級学校などの見学会・体験入学 ふれあい講演会、職業人による講話、卒業生に聞く会 学校図書館の利用、教科・領域における調べ学習、発表会、など
将来設計能力	<ul style="list-style-type: none"> 学級における自己の役割を果たす係活動 学習計画の立案・実行 自分史、中学卒業後の進路計画、など
意思決定能力	<ul style="list-style-type: none"> 学級における話し合い活動 特別活動におけるガイダンスの機能の充実 選択教科の決定、教科・領域における問題解決的な学習、など

ステップ2

キャリア教育の年間計画の企画・立案をします

年間計画の企画・立案を「学習プログラムの枠組み(例)」で示された4能力領域を用いて体系的に行うことが大切です。そのことによって、教科や領域など広範囲にわたる活動の関連性が見えてきます。さらには、効率的な活動の配置が可能になると考えられます。

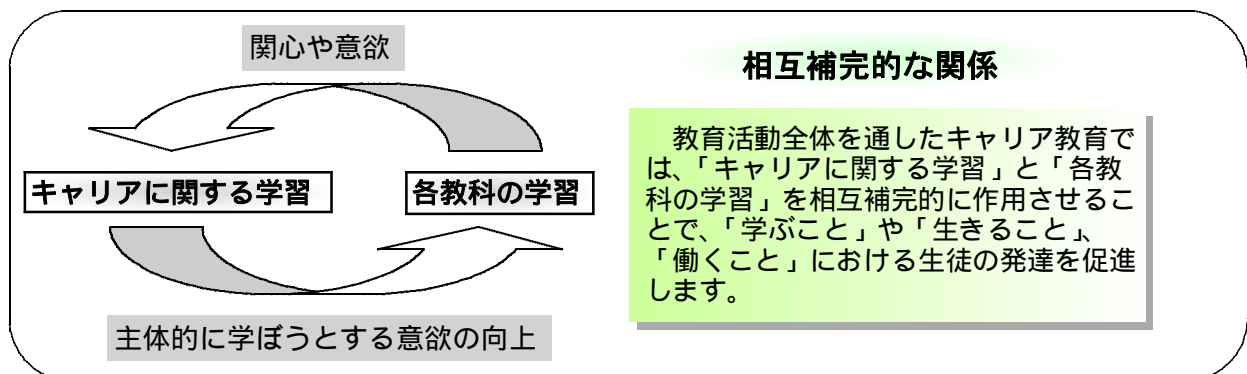
小学校では、学校の教育活動全体を通してキャリアの発達を支援していきます



中学校では、特に教科の学習と関連付けながらキャリアの発達を進めていきます

中学校では、進路学習の時間だけでなく、各教科の学習を通して、自己の生き方を探求したり、将来就きたい職業や仕事への関心・意欲を高めたりします。また、社会や産業の変化、労働者の権利・義務についての理解を深める学習も必要です。これらの学習を通して、目指す職業や上級学校を選択する力を身に付けていきます。

特別活動、道徳、総合的な学習の時間では、各教科の学習で学んだ成果等を様々な体験活動や話し合い等を通して、深化・発展、統合させたり、逆に、その成果を各教科の学習に還元し反映させていくことが望まれます。



中学校の技術・家庭科、社会科の公民的分野や選択教科における関連分野での学習はもとより、すべての教科において、それぞれの単元や題材を分析する際に、4能力領域(「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」)に示された諸能力の育成という観点から、教科の特性を踏まえた指導方法等を検討していくことが大切です。

ステップ3

活動例等をもとに、キャリア教育の具体的な活動計画を立て実践します

活動は、4能力領域に示された能力・態度に従って展開されることが望めますが、その結果、勤労観、職業観という価値観が形成されます。価値基準があって初めて、児童生徒の主体的な進路の選択・決定が可能になります。日常の学校生活では、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」として観察できます。

<小学校の事例>



「係・清掃・当番活動等」(全学年)

○キャリア教育の視点

- ・働くことの大切さや苦勞がわかることになり、働くことの意義や役割を理解する力を育てます。

○児童の感想

- ・そうじの時間に、水道のところをピカピカにみがいたら、きれいになってとても気持ちよくなりました。
- ・うさぎの世話を友だちと協力してやったら、とてもきれいになりました。うさぎも喜んでくれているように見えました。



「地域に学ぶ」(5年生)

○キャリア教育の視点

- ・施設等を見学する活動を通して、働くことの大切さや工夫、苦勞、楽しさなどを学びます
- ・施設等を見学する活動を通して分かったこと、気づいたこと、グループで発表し合うことで、自分の想いを伝え合う力を育てます。

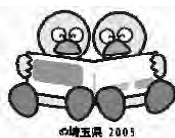
○児童の感想

- ・地域に、ものすごいパン作り名人がいて驚きました。自分もそういう技術を身に付けたいと思いました。
- ・友だちの発表を聞いて、自分の住んでいる地域にすごい技を持った人がたくさんいることを初めて知りました。自分もいろいろなことに挑戦したくなりました。

<中学校の事例>

人間関係づくり

よりよい人間関係をつくり、維持するための具体的な技術やコツを教えることを通して、望ましい人間関係をつくる力を育てることをねらいとします。



○キャリア教育の視点

- ・自分の日常を振り返る活動 【人間関係形成能力】
- ・友人のよさを見つたり自分のよさを見つけてもらう活動 【人間関係形成能力】
- ・よりよい集団活動のための自分の役割の理解 【将来設計能力】

○生徒の感想

- ・自分自身では思ってもいなかったが、みんなからそう見られていることを知り、びっくりしたと同時に、これからはがんばろうと思った。
- ・自分では「無邪気な」「人なつっこい」自分だと思っていたが、みんなから「しっかりしている」「頼りになる」と見られていることを知ってびっくりした。

家庭・学校・地域「ふれあい講演会」

生徒並びに保護者の進路意識の啓発を図るために、県内すべての公立中学校で実施されています。地域で活躍している方を講師に招き、働くことの厳しさや充実感、中学生の生き方などについての示唆をいただくことを目的としています。

○キャリア教育の視点

- ・生きがいや社会とのつながりへの理解 【将来設計能力】
- ・将来の進路を見つめ、考える 【情報活用能力】
- ・講師の話から自分の生き方を考える 【人間関係形成能力】

○生徒の感想

- ・私も「保育士」という夢がありますが、すごく不安でした。今日、先生の話聞いて、もう一度将来のことを深く考えてみようと思いました。少し怖いけれど、先生のおっしゃった「失敗をすればするほど人間は成長する」この言葉を胸に自分の夢に向かって努力しようと思いました。

ステップ4 キャリア教育の評価を行い改善を図ります

実践 評価

ステップ3から
ステップ4へ

キャリア教育の評価のポイントは、児童生徒の変容や成果に対する評価と学校の取組への評価となります。4能力領域の視点を踏まえ、多くの人たち（自分、仲間、教員、保護者、地域の方等）が、多様な視点で評価し、子どもたちを励まし支援していくことが大切です。

児童生徒の自己実現に向けて、
指導と評価の一体化を図りましょう（指導と評価の流れ）

学校のこれまでの取組を、キャリア教育の視点で見直そう

職場見学、職場体験、福祉体験、ボランティア活動、係・委員会活動、班活動、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、各教科・・・等

これまでの各学校の学習活動を、キャリア教育の視点で「子どもにとって」「学校として」という観点で、評価し直してみましょう。

新しいことを始めるのではなく、今までの実践を生かしていきましょう

児童生徒の取組について

学校の取組について

・児童生徒の実態、保護者の考え、地域の様子等の再評価

計

・学校の組織、体制、キャリア教育にかかわる学習の再確認

自校のキャリア教育のねらいの明確化

学校教育目標
児童生徒に獲得してもらいたい能力
人間関係形成能力 情報活用能力 将来設計能力 意思決定能力
「生きること」「学ぶこと」「働くこと」への意欲
自校の診断的評価によるキャリア発達課題の明確化 等

・児童生徒のキャリア発達の状況の分析、評価
・各活動に対する評価方法の設定

画

・キャリア教育の指導計画の作成（今までの自校の実践をキャリア教育の視点で紡ぎ直す。）

多様な視点による児童生徒の変容の評価

・児童生徒の自己評価
・児童生徒同士の相互評価
・教員からの働きかけ
・保護者からの励まし
・地域の方から支援
・多様な評価方法
ポートフォリオ、ワークシート、感想文等

実

キャリア教育充実のための取組

・特別活動・道徳におけるキャリア教育の位置付け
・総合的な学習の時間の取組の工夫
・各教科との関連
・体験学習の工夫
・家庭、地域との連携等

践

様々な取組を多様な視点で評価するのがポイント

自分を見つめ直す評価

・自己、相互の振り返り
・ポートフォリオの評価
・家庭、地域への発信

評

キャリア教育の取組についての評価

・各実践の計画
・各実践のねらい、内容
・各実践の系統性や実施時期等
・家庭、地域からの評価
・学校評価

価

・次年度に向けての目標をつかむ
・自己実現に向けての意欲
・社会的自立に向けての意識付け

改

・キャリア教育年間計画の見直し
・実践の精選・系統性の確認
・次年度のキャリア教育の計画・実践

善

「中学校を知ろう」(6学年)

学級活動の時間において、中学校の先生から中学校の様子を聞いたり、中学生から小学生へのビデオレターで映像とともに様子を語ってもらったりするなどして、中学校へスムーズに移行できるようにします。

キャリア教育の視点

新しい環境や、人間関係に適應する態度や能力を育てます。

児童の感想

- ・中学に入学するのが楽しみになりました。先輩たちのように中学へ行っても、勉強や運動にがんばります
- ・私が今、入っている部活はテニス部です。部活動見学に来たときに入りたいなと思っていました。練習は厳しいけれど、今とても充実しています。

職場体験学習

県内多くの中学校で実施されていますが、中学生が、地域の中でのさまざまな社会体験活動や多くの人々とのふれあいを通して、みずみずしい感性や社会性、自律心を養い、たくましく心豊かに生きる力をはぐくむことをねらいとしています。

キャリア教育の視点

- ・自分なりの価値観、勤労観、職業観をもつ 【意思決定能力】
- ・仕事を通じた生きがいや責任感、自己有用感の育成 【将来設計能力】
- ・社会生活に必要な技能の理解と習得 【情報活用能力】

生徒の感想

- ・社会とはこんなに大変だと言うことを学んだ。疲れたけれど、とてもよい経験になった。もっと勉強しているいると挑戦していかなければならないと感じた。
- ・人と触れ合って、仕事をする事の難しさいろいろ人とコミュニケーションをとることの大変さなどが学べた。

キャリア教育支援のためのサイト

◆文部科学省

文部科学省のキャリア教育に関する施策については、次のサイトにまとめられています。キャリア教育の推進に関する国全体の取り組みのほか、具体的な中学校職場体験ガイドなども掲載されています。
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502.htm)

◆「総合的な学習の時間」応援団のページ

小中高校における「総合的な学習の時間」の活動を支えるため、行政や関係団体などさまざまな組織が体験学習のプログラムや情報提供などのサービスを提供しています。文部科学省のホームページの中に「総合的な学習の時間応援団のページ」が設けられており、どのような機関でどんな協力が得られるか概観することができます。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm)

◆教員研修センター

教員研修センターがインターネット上に公開しているサイトには「研修支援情報」というコーナーがあります。ここに「キャリア教育研修に関する講義」情報が掲載されており、「キャリア教育を推進するための指導者の養成を目的とした研修」に関する講義が動画で提供されています。資料も豊富に掲載されており、キャリア教育に関する充実した情報が得られます。

(<http://www.nctd.go.jp/index.html>)

◆埼玉県彩の国わくわくこどもページ

埼玉県の子ども向けホームページです。そのなかに「教えて！お仕事」という仕事紹介コーナーがあり、これから続々いろいろな職業を紹介する予定です。他に「なやんでいるときは…」のコーナーでは悩み事がある際の相談窓口も紹介しています。

(<http://www.pref.saitama.lg.jp/kodomo/top.htm>)

◆職業ガイダンス支援サイト「ガイダンス・サポーター」

学校のキャリア教育やハローワークなど若者の就職支援窓口で行われる職業ガイダンスに役立つ情報を提供することを目的として、独立行政法人「労働政策研究・研修機構」が開設しました。このサイトでは、「進路指導や職業相談に関連する調査研究や刊行物に関する情報」「関連データのワンポイント解説」「ガイダンス・ツールの紹介」「若年者問題に関するトピックスや調査・統計、法律・制度・対策などの動き、イベントなどの情報」等の情報が提供されています。

(<http://start.hrsys.net/>)

キャリア教育支援用ツール

◇職業レディネステスト（VRT）

6つの興味領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的、）に対する興味の程度と自信度をプロフィールで表示します。基礎的志向性（対情報、対人、対物）も測定します。対象者は中学生以上で、所要時間は約1時間となっています。回答者の自分のペースで実施する紙筆検査であり、若者に対して自己理解を深めさせ、職業選択に対する考え方を学習させる教材として有効となっています。

(<http://www.jil.go.jp/institute/seika/VRT.htm>)

◇職業ハンドブックOHBY（オービィ）

現代の主要な430職業について、中高生向けにわかりやすく解説した進路学習・ガイダンスのためのツールです。豊富な画像やイラストから職業の世界をやさしく学べるようになっています。また、いろいろな探索メニューから、興味・関心のある職業を調べられ、簡単なテストで自分の興味・能力の特性を理解できます。OHBYから48職業をカードにしたOHBYカードもあります。

(<http://www.hrsys.net/ohby/>)

◇キャリアマトリックス

厚生労働省の外郭団体である労働政策研究・研修機構が提供している総合的職業情報データベースです。約500種類の職業に対して「どんな職業か」「就くには」「労働条件の特徴」「職業プロフィール」などの充実した職業情報を提供します。また、「適職検索ナビ」を使うことで、仕事や生活に対する興味・スキルなどから、自分に合った職業を探することができます。自分の志向方向を理解すると同時に詳しい職業情報が得られる日本最大級の職業データベースになっています。

(<http://cmx.vrsys.net/>)

※ 本『埼玉県キャリア教育推進テキスト』は、埼玉県教育委員会のホームページにある「義務教育指導課」のページからダウンロードできます。

(<http://www.pref.saitama.lg.jp/A20/BP00/core.html>)

